

以下、本文-----

## 結核性癒痕気道狭窄回避目的とした気管支鏡下ステロイド局所散布療法の有用性に関する検討

### 1. 研究の対象

2015年9月1日～2017年5月31日までに気管支結核に対する気管支鏡下ステロイド局所散布療法を受けた症例で治療に対する患者の同意が得られたもの。

### 2. 研究目的・方法

結核性気道病変の後遺症として治癒過程で生じる癒痕性気管支狭窄や閉塞の合併が問題となるが、患者にとって侵襲的治療であるステント留置やバルーン拡張術によるインターベンションや外科的療法を要することなく内科的な治療での回避が望まれている。本処置は病巣に対するステロイド局所投与により、将来的に侵襲的治療を要することなく癒痕性気管支狭窄・閉塞を少しでも回避できるようにすることが目的である。

気管支結核の気管支鏡所見分類である荒井分類（気管支学）を参考に、気管支鏡所見上、後に癒痕狭窄になりやすいTypeⅢb（隆起性潰瘍型）で活動性病変が全周の1/2（横断的広がり度）以上を目安とし、これらを満たす症例を治療対象とした。対象者に対して気管支鏡下にフルチカゾンプロピオン酸エステル点鼻薬400μg（保険適応量）もしくはトリアムシノロンアセトニド10mg（保険適応量）の局所散布を行った。処置は患者の状態に応じて1-2週毎に繰り返し実施し、荒井の分類に基づき、気管支鏡所見上、対象としている隆起性潰瘍病変（TypeⅢb）が内腔全周の1/2未満～消退もしくは肉芽型（TypeⅣ）へ移行する時点を処置終了の目安とした。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：喀痰、気管支鏡下に採取された深部採痰

情報：病歴、気管支鏡所見、胸部画像、カルテ番号 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：岐阜県立多治見病院呼吸器内科 矢口大三

-----以上